

■当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／国内／株式
信託期間	無期限（設定日：2005年10月24日）
運用方針	マザーファンドへの投資を通じて、わが国の株式へ投資することにより、安定した配当収入の確保とともに長期的な信託財産の成長を図ることを目標として運用を行います。
主要投資対象	当ファンドは以下のマザーファンドを主要投資対象とします。 <b>日本好配当株マザーファンド</b> わが国の株式
当ファンドの運用方法	■日本好配当株マザーファンドへの投資を通じて、わが国のお好配当株式へ分散投資することにより、安定した配当収入の確保と中長期的な値上がり益の獲得を目指します。 ■銘柄選定に当たっては、予想配当利回りの水準に着目しつつ、配当の安定性や成長性、企業の業績動向、株価のバリュエーション（割安性）等を勘案して行います。
組入制限	<b>当ファンド</b> ■株式への実質投資割合には制限を設けません。 ■外貨建資産への実質投資は行いません。 <b>日本好配当株マザーファンド</b> ■株式への投資割合には制限を設けません。 ■外貨建資産への投資は行いません。
分配方針	■年4回（原則として毎年1月、4月、7月、10月の8日。休業日の場合は翌営業日）決算を行い、分配を行います。 ■分配対象額は、経費控除後の利子、配当等収益と売買益（評価損益を含みます。）等の範囲内とします。 ■分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。 ※委託会社の判断により分配を行わない場合もあるため、将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。

# 日本好配当株オープン

## 【運用報告書（全体版）】

第40作成期（2025年4月9日から2025年10月8日まで）

第78期 / 第79期

第78期：決算日 2025年7月8日

第79期：決算日 2025年10月8日

### 受益者の皆さまへ

平素は格別のお引立てに預かり、厚くお礼申し上げます。

当ファンドはマザーファンドへの投資を通じて、わが国の株式へ投資することにより、安定した配当収入の確保とともに長期的な信託財産の成長を図ることを目標として運用を行います。当作成期についても、運用方針に沿った運用を行いました。

今後ともご愛顧のほどお願い申し上げます。



### 三井住友DSアセットマネジメント

〒105-6426 東京都港区虎ノ門1-17-1

<https://www.smd-am.co.jp>

■口座残高など、お取引状況についてのお問い合わせ

お取引のある販売会社へお問い合わせください。

■当運用報告書についてのお問い合わせ

コールセンター 0120-88-2976

受付時間：午前9時～午後5時（土、日、祝・休日を除く）

## 日本好配当株オープン

原則として、各表の数量および金額の単位未満は切捨て、比率は四捨五入で表記しています。ただし、単位未満の数値については小数を表記する場合があります。

### ■ 最近10期の運用実績

決算期	基準価額				(参考指數) T O P I X (東証株価指数、配当込み)	株式組入比率	株式先物比率 (買建-売建)	純資産額
	(分配落)	税分配	込金	期騰落率				
70期 (2023年7月10日)	円 18,569	円 20	% 14.5		3,729.74	% 13.7	% 97.0	% 2.3
71期 (2023年10月10日)	20,082	120	8.8		3,879.47	4.0	97.7	1.3
72期 (2024年1月9日)	20,490	120	2.6		4,056.12	4.6	97.7	1.4
73期 (2024年4月8日)	22,275	120	9.3		4,630.80	14.2	96.7	2.3
74期 (2024年7月8日)	22,975	120	3.7		4,877.16	5.3	97.5	2.3
75期 (2024年10月8日)	22,705	120	△ 0.7		4,635.77	△ 4.9	96.8	2.2
76期 (2025年1月8日)	22,954	130	1.7		4,765.56	2.8	96.8	2.3
77期 (2025年4月8日)	21,739	130	△ 4.7		4,232.03	△ 11.2	95.9	2.4
78期 (2025年7月8日)	24,180	130	11.8		4,911.23	16.0	96.1	2.4
79期 (2025年10月8日)	27,030	150	12.4		5,696.31	16.0	96.6	2.0

※基準価額の騰落率は分配金込み。

※当ファンドは親投資信託を組み入れますので、比率は実質比率を記載しています。

※株式組入比率には、新株予約権証券を含みます。

※指標の著作権、知的所有権、その他一切の権利は発行者、許諾者が有しています。これら発行者、許諾者は当ファンドの運営に何ら関与するものではなく、当ファンドの運用成果に対して一切の責任を負うものではありません。

※参考指標は市場の動きを示す目的で記載しており、当ファンドが当該参考指標を意識して運用しているわけではありません。

## ■ 当作成期中の基準価額と市況等の推移

決算期	年月日	基準価額	(参考指數) TOPIX (東証株価指数、配当込み)		株式組入率	株式先物比 (買建-売建)
			騰落率	騰落率		
第78期	(期首) 2025年4月8日	円 21,739	% —	4,232.03	% —	% 95.9
	4月末	23,384	7.6	4,641.96	9.7	96.1
	5月末	23,964	10.2	4,878.83	15.3	95.4
	6月末	24,212	11.4	4,974.53	17.5	95.4
	(期末) 2025年7月8日	24,310	11.8	4,911.23	16.0	96.1
第79期	(期首) 2025年7月8日	24,180	—	4,911.23	—	96.1
	7月末	25,032	3.5	5,132.22	4.5	96.3
	8月末	26,483	9.5	5,363.98	9.2	96.1
	9月末	27,070	12.0	5,523.68	12.5	96.1
	(期末) 2025年10月8日	27,180	12.4	5,696.31	16.0	96.6

※期末基準価額は分配金込み、騰落率は期首比です。

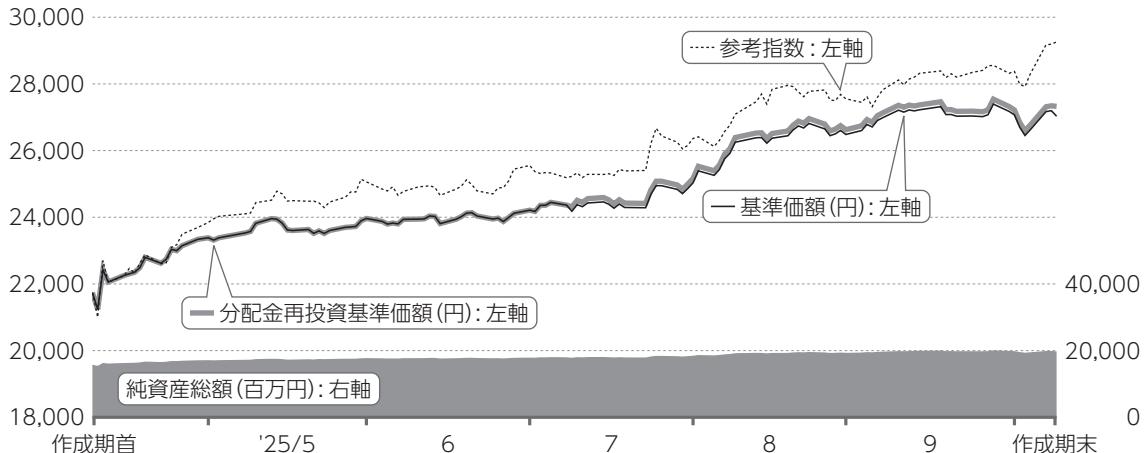
※当ファンドは親投資信託を組み入れますので、比率は実質比率を記載しています。

※株式組入比率には、新株予約権証券を含みます。

# 1 運用経過

基準価額等の推移について(2025年4月9日から2025年10月8日まで)

## 基準価額等の推移



※分配金再投資基準価額および参考指標は、作成期首の値が基準価額と同一となるように指数化しています。

作成期首	21,739円
作成期末	27,030円 (当作成期既払分配金280円(税引前))
騰落率	+25.7% (分配金再投資ベース)

## 分配金再投資基準価額について

分配金再投資基準価額は分配金(税引前)を分配時に再投資したと仮定して計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示します。

※分配金を再投資するかどうかについては、受益者の皆さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額などによって課税条件も異なります。したがって、受益者の皆さまの損益の状況を示すものではありません。(以下、同じ)

※当ファンドの参考指標は、TOPIX(東証株価指数、配当込み)です。

※指標の著作権、知的所有権、その他一切の権利は発行者、許諾者が有しています。これら発行者、許諾者は当ファンドの運営に何ら関与するものではなく、当ファンドの運用成果に対して一切の責任を負うものではありません。

### 基準価額の主な変動要因(2025年4月9日から2025年10月8日まで)

当ファンドは、マザーファンドへの投資を通じて、わが国の株式へ投資しました。個別銘柄の“予想配当利回りの水準”に着目しつつ、配当の安定性や成長性、企業の業績動向、株価のバリュエーション(投資価値評価)を勘案して銘柄選択を行いました。

#### 上昇要因

- 魅力ある配当利回りが評価された銘柄に投資を行っていたこと
- 投資対象として選択した企業の業績が市場予想を上回ったこと

#### 下落要因

- 米国による関税が懸念されたこと
- 米中対立が懸念されたこと

### 投資環境について(2025年4月9日から2025年10月8日まで)

#### 日本株式市場は上昇しました。

期初は、トランプ大統領による相互関税実施の先延ばしや米中貿易摩擦の後退から上昇しました。国内企業業績見通しは低調であったものの、米政権の関税措置緩和期待などから、その前の下落分を打ち消しました。

期半ばは、中東紛争の短期収束、米関税政策への不安後退、米国の早期利下げ期待などから徐々に下値を切り上げ、日米関税

交渉が市場予想よりも早期かつ低税率で合意されると史上最高値を更新しました。

期後半は、国内の四半期GDP(国内総生産)速報値、米利下げの再開などが好感されて上昇基調が継続しました。期末にかけては、石破首相の辞意表明に伴う自民党総裁選において積極財政を掲げる高市氏が選任されたことを受けて、一段と上昇しました。

### ポートフォリオについて(2025年4月9日から2025年10月8日まで)

#### 当ファンド

主要投資対象である「日本好配当株マザーファンド」を期を通じて高位に組み入れました。

#### 日本好配当株マザーファンド

ポートフォリオの構築に当たっては、引き続き予想配当利回りの高さや株価の割安性に着目しつつも、流動性、財務安定性、業績動向、利益成長性および株主還元政策、将来の配当の安定性や成長性等も勘案して、投資する銘柄を選別しました。

#### ●株式組入比率

実質株式組入比率は9割以上に保ちました。

## 日本好配当株オープン

### ●業種配分

期末の業種配分比率につきましては、市場対比では建設業、不動産業、陸運業などのウェイトを高くしています。一方、電気機器、銀行業、機械などのウェイトを低くしています。

### ●個別銘柄

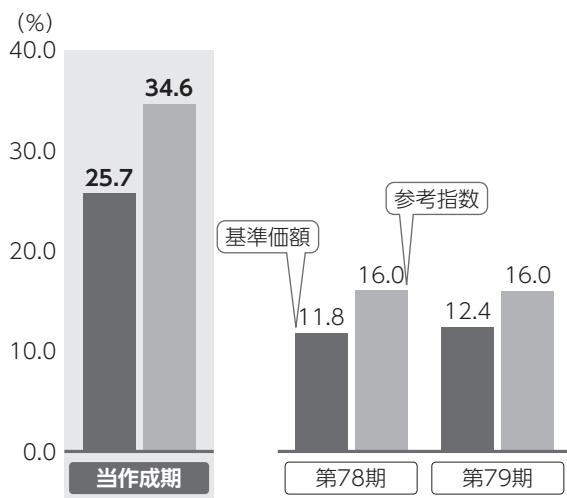
インフロニア・ホールディングス、野村不動産ホールディングスなどを高い比率で保有しています。

### ●ポートフォリオの特性

高配当利回り、純資産・予想収益面から割安な特性です。

### ベンチマークとの差異について(2025年4月9日から2025年10月8日まで)

#### 基準価額と参考指数の騰落率対比



当ファンドは運用の指標となるベンチマークはありませんが、参考指標としてTOPIX (東証株価指数、配当込み)を設けています。

記載のグラフは、基準価額と参考指標の騰落率の対比です。

※当作成期の基準価額は分配金再投資ベース、各期は分配金(税引前)込み。

## 分配金について(2025年4月9日から2025年10月8日まで)

(単位：円、1万口当たり、税引前)

項目	第78期	第79期
当期分配金	130	150
(対基準価額比率)	(0.53%)	(0.55%)
当期の収益	130	150
当期の収益以外	–	–
翌期繰越分配対象額	15,437	18,250

※単位未満を切り捨てているため、「当期の収益」と「当期の収益以外」の合計が「当期分配金」と一致しない場合があります。

※「対基準価額比率」は、「当期分配金」(税引前)の期末基準価額(分配金(税引前)込み)に対する比率で、当ファンドの収益率とは異なります。

期間の1万口当たりの分配金(税引前)は、基準価額水準等を勘案し、左記の通りいたしました。

なお、留保益につきましては、運用の基本方針に基づき運用いたします。

## 2 今後の運用方針

## 当ファンド

「日本好配当株マザーファンド」を高位に組み入れて運用を行います。

## 日本好配当株マザーファンド

運用方針としては、引き続き、銘柄の“予想配当利回りの高さ”や株価の割安性に着目

しつも、業績動向、利益成長性および株主還元政策、将来の配当の安定性や成長性等も勘案して銘柄選択を行っていきます。

また同一セクター内でも業績格差が拡大する傾向が続くとみていることから、業績見通しを精査し、堅調な業績が見込める企業への選別投資を進めていく方針です。

## 3 お知らせ

## 約款変更について

該当事項はございません。

## 日本好配当株オープン

### 1万口当たりの費用明細(2025年4月9日から2025年10月8日まで)

項目	金額	比率	項目の概要
(a) 信託報酬	148円	0.595%	信託報酬=期中の平均基準価額×信託報酬率×(経過日数／年日数) 期中の平均基準価額は24,862円です。
(投信会社)	(69)	(0.276)	投信会社:ファンド運用の指図等の対価
(販売会社)	(71)	(0.286)	販売会社:交付運用報告書等各種資料の送付、口座内のファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
(受託会社)	(8)	(0.033)	受託会社:ファンド財産の保管および管理、投信会社からの指図の実行等の対価
(b) 売買委託手数料	17	0.068	売買委託手数料=期中の売買委託手数料／期中の平均受益権口数
(株式)	(17)	(0.067)	売買委託手数料:有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(先物・オプション)	(0)	(0.000)	
(投資信託証券)	(-)	(-)	
(c) 有価証券取引税	-	-	有価証券取引税=期中の有価証券取引税／期中の平均受益権口数
(株式)	(-)	(-)	有価証券取引税:有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(公社債)	(-)	(-)	
(投資信託証券)	(-)	(-)	
(d) その他費用	0	0.002	その他費用=期中のその他費用／期中の平均受益権口数
(保管費用)	(-)	(-)	保管費用:海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送回金・資産の移転等に要する費用
(監査費用)	(0)	(0.002)	監査費用:監査法人に支払うファンドの監査費用
(その他の)	(-)	(-)	その他の:信託事務の処理等に要するその他費用
合計	165	0.664	

※期中の費用(消費税のかかるものは消費税を含む)は、追加・解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出しています。

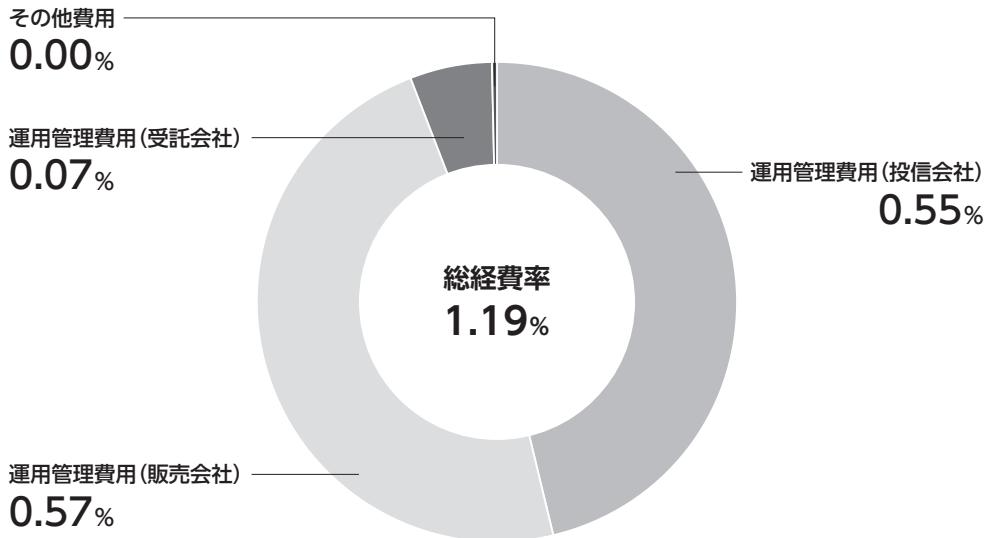
※比率欄は1万口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

※各項目毎に円未満は四捨五入しています。

※売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、当ファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。



## 参考情報 総経費率(年率換算)



※各費用は、前掲「1万口当たりの費用明細」において用いた簡便法により算出したもので、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

※各比率は、年率換算した値(小数点以下第2位未満を四捨五入)です。

※上記の前提条件で算出しているため、「1万口当たりの費用明細」の各比率とは、値が異なる場合があります。なお、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

当作成期中の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。)を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額(1口当たり)を乗じた数で除した総経費率(年率換算)は1.19%です。

## 日本好配当株オーブン

### ■ 当作成期中の売買及び取引の状況 (2025年4月9日から2025年10月8日まで)

親投資信託受益証券の設定、解約状況

	当 作 成 期					
	設 定		解 約			
	口 数	金 額	口 数	金 額		
日本好配当株マザーファンド	千口 155,076	千円 628,922	千口 185,653	千円 808,032		

### ■ 親投資信託の株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合

(2025年4月9日から2025年10月8日まで)

項 目	当 作 成 期	
	日本好配当株マザーファンド	
(a) 作成期中の株式売買金額		18,859,354千円
(b) 作成期中の平均組入株式時価総額		18,365,927千円
(c) 売買高比率(a) / (b)		1.02

※(b)は各月末現在の組入株式時価総額の平均。

※外貨建資産については、(a)は各月末（ただし、決算日の属する月については決算日）の日本の対顧客電信売買相場の仲値で換算した邦貨金額の合計、(b)は各月末の同仲値で換算した邦貨金額合計の平均です。

### ■ 利害関係人との取引状況等 (2025年4月9日から2025年10月8日まで)

#### (1) 利害関係人との取引状況

日本好配当株オーブン

当作成期中における利害関係人との取引等はありません。

日本好配当株マザーファンド

区 分	当 作 成 期					
	買付額等 A	うち利害関係人 との取引状況B	$\frac{B}{A}$	売付額等 C	うち利害関係人 との取引状況D	$\frac{D}{C}$
株 式	百万円 9,511	百万円 414	% 4.4	百万円 9,348	百万円 175	% 1.9

※平均保有割合 96.1%

※平均保有割合とは、親投資信託の残存口数の合計に対する当該ベビーファンドの親投資信託所有口数の割合。

## 日本好配当株オープン

### (2) 売買委託手数料総額に対する利害関係人への支払比率

#### 日本好配当株オープン

項目	当 作 成 期
(a) 売 買 委 託 手 数 料 総 額	12,418千円
(b) う ち 利 害 関 係 人 へ の 支 払 額	490千円
(c) (b) / (a)	3.9%

※売買委託手数料総額は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものです。

利害関係人とは、投資信託および投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人であり、当作成期における当ファンドに係る利害関係人とは、SMB C 日興証券株式会社です。

### ■ 第一種金融商品取引業、第二種金融商品取引業又は商品取引受託業務を兼業している委託会社の自己取引状況 (2025年4月9日から2025年10月8日まで)

該当事項はございません。また委託会社に売買委託手数料は支払われておりません。

### ■ 組入れ資産の明細 (2025年10月8日現在)

#### 親投資信託残高

種 類	作 成 期 首	作 成 期 末	
	口 数	口 数	評 價 額
日本好配当株マザーファンド	千口 4,271,872	千口 4,241,295	千円 19,772,495

※日本好配当株マザーファンドの作成期末の受益権総口数は4,409,009,275口です。

### ■ 投資信託財産の構成

(2025年10月8日現在)

項 目	作 成 期 末	
	評 價 額	比 率
日本好配当株マザーファンド	千円 19,772,495	% 99.1
コール・ローン等、その他の投資信託財産	186,113	0.9
投 資 信 託 財 産 総 額	19,958,608	100.0

# 日本好配当株オープン

## ■ 資産、負債、元本及び基準価額の状況

(2025年7月8日) (2025年10月8日)

項目	第78期末	第79期末
(A) 資産	18,012,789,050円	19,958,608,484円
コール・ローン等	8,690,066	7,320,112
日本好配当株マザーファンド(評価額)	17,856,642,712	19,772,495,225
未収入金	147,456,272	178,793,147
(B) 負債	153,086,077	196,896,840
未払収益分配金	96,017,959	109,663,890
未払解約金	5,550,856	29,545,065
未払信託報酬	51,374,606	57,385,874
その他未払費用	142,656	302,011
(C) 純資産総額(A-B)	17,859,702,973	19,761,711,644
元本	7,385,996,895	7,310,926,042
次期繰越損益金	10,473,706,078	12,450,785,602
(D) 受益権総口数	7,385,996,895口	7,310,926,042口
1万口当たり基準価額(C/D)	24,180円	27,030円

※作成期における作成期首元本額7,248,775,303円、作成期中追加設定元本額418,502,215円、作成期中一部解約元本額356,351,476円です。

※上記表中の次期繰越損益金がマイナス表示の場合は、当該金額が投資信託財産の計算に関する規則第55条の6第10号に規定する額(元本の欠損)となります。

※上記表中の受益権総口数および1万口当たり基準価額が、投資信託財産の計算に関する規則第55条の6第7号および第11号に規定する受益権の総数および計算口数当たりの純資産の額となります。

## ■ 損益の状況

[自2025年4月9日] [自2025年7月9日]  
[至2025年7月8日] [至2025年10月8日]

項目	第78期	第79期
(A) 配当等収益	10,639円	11,967円
受取利息	10,639	11,967
(B) 有価証券売買損益	1,911,320,723	2,221,694,578
売買益	1,937,798,420	2,259,234,523
売買損	△ 26,477,697	△ 37,539,945
(C) 信託報酬等	△ 51,517,262	△ 57,545,229
(D) 当期損益(A+B+C)	1,859,814,100	2,164,161,316
(E) 前期繰越損益金	7,194,125,342	8,696,313,851
(F) 追加信託差損益金	1,515,784,595	1,699,974,325
(配当等相当額)	( 2,443,564,290)	( 2,589,734,501)
(売買損益相当額)	(△ 927,779,695)	(△ 889,760,176)
(G) 合計(D+E+F)	10,569,724,037	12,560,449,492
(H) 収益分配金	△ 96,017,959	△ 109,663,890
次期繰越損益金(G+H)	10,473,706,078	12,450,785,602
追加信託差損益金	1,515,784,595	1,699,974,325
(配当等相当額)	( 2,444,016,577)	( 2,592,115,739)
(売買損益相当額)	(△ 928,231,982)	(△ 892,141,414)
分配準備積立金	8,957,921,483	10,750,811,277

※有価証券売買損益は各期末の評価換えによるものを含みます。

※株式投信の信託報酬等には消費税等相当額が含まれており、公社債投信には内訳の一部に消費税等相当額が含まれています。

※追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

※分配金の計算過程は以下の通りです。

	第78期	第79期
(a) 経費控除後の配当等収益	62,943,097円	245,127,516円
(b) 経費控除後の有価証券売買等損益	696,283,264	1,919,033,800
(c) 収益調整金	2,444,016,577	2,592,115,739
(d) 分配準備積立金	8,294,713,081	8,696,313,851
(e) 当期分配対象額(a+b+c+d)	11,497,956,019	13,452,590,906
1万口当たり当期分配対象額	15,567.24	18,400.67
(f) 分配金	96,017,959	109,663,890
1万口当たり分配金	130	150

## 日本好配当株オープン

### ■ 分配金のお知らせ

1万口当たり分配金（税引前）	第 78 期	第 79 期
	130円	150円

※分配金は、分配後の基準価額が個別元本と同額または上回る場合は全額「普通分配金」となり課税されます。分配後の基準価額が個別元本を下回る場合は下回る部分が「元本払戻金（特別分配金）」となり非課税、残りの部分が「普通分配金」となります。

上記のほか、投資信託財産の計算に関する規則第58条第1項各号に該当する事項はありません。

# 日本好配当株マザーファンド

第40期（2025年4月9日から2025年10月8日まで）

信託期間	無期限（設定日：2005年10月24日）
運用方針	■わが国的好配当株式へ分散投資することにより、安定した配当収入の確保と中長期的な値上がり益の獲得を目指します。

原則として、各表の数量および金額の単位未満は切捨て、比率は四捨五入で表記しています。ただし、単位未満の数値については小数を表記する場合があります。

## ■ 最近5期の運用実績

決算期	基準価額	(参考指指数) TOPIX (東証株価指数、配当込み)		株式組入率	株式先物率 (買建-売建)	純資産額
		期騰落率	中騰落率			
36期（2023年10月10日）	円 32,366	% 25.3	3,879.47	% 18.3	97.7	% 1.3 百万円 15,460
37期（2024年4月8日）	36,518	12.8	4,630.80	19.4	96.7	2.3 16,744
38期（2024年10月8日）	37,834	3.6	4,635.77	0.1	96.8	2.2 17,052
39期（2025年4月8日）	36,880	△ 2.5	4,232.03	△ 8.7	95.9	2.4 16,450
40期（2025年10月8日）	46,619	26.4	5,696.31	34.6	96.6	2.0 20,554

※株式組入比率には、新株予約権証券を含みます。

※指標の著作権、知的所有権、その他一切の権利は発行者、許諾者が有しています。これら発行者、許諾者は当ファンドの運営に何ら関与するものではなく、当ファンドの運用成果に対して一切の責任を負うものではありません。

※参考指標は市場の動きを示す目的で記載しており、当ファンドが当該参考指標を意識して運用しているわけではありません。

## ■ 当期中の基準価額と市況等の推移

年 月 日	基 準 価 額	(参 考 指 数)		株 式 組 入 率	株 式 先 物 率 (買建-売建)
		騰 落 率	騰 落 率		
(期 首) 2025年 4月 8日	円 36,880	% 一	% 4,232.03	% 95.9	% 2.4
4月末	39,695	7.6	4,641.96	9.7	96.1
5月末	40,719	10.4	4,878.83	15.3	95.2
6月末	41,180	11.7	4,974.53	17.5	95.2
7月末	42,845	16.2	5,132.22	21.3	96.2
8月末	45,366	23.0	5,363.98	26.7	95.9
9月末	46,418	25.9	5,523.68	30.5	95.8
(期 末) 2025年10月 8日	46,619	26.4	5,696.31	34.6	96.6
					2.0

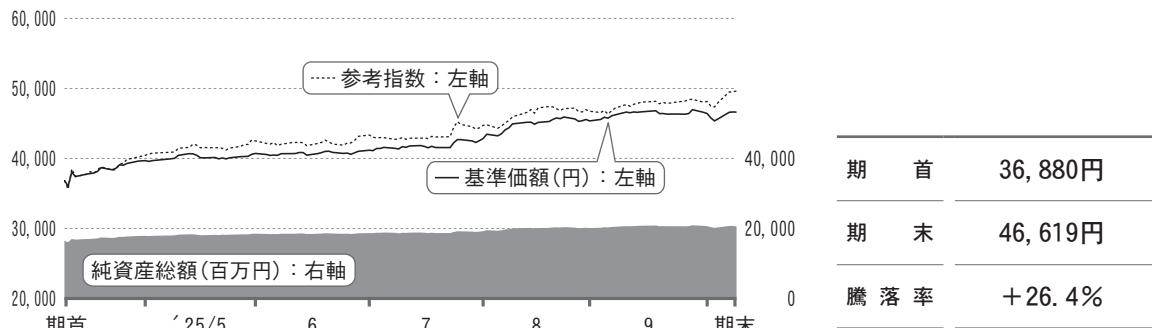
※騰落率は期首比です。

※株式組入比率には、新株予約権証券を含みます。

## 1 運用経過

### ▶ 基準価額等の推移について (2025年4月9日から2025年10月8日まで)

#### 基準価額等の推移



※参考指数は、期首の値が基準価額と同一となるように指数化しています。

※当ファンドの参考指数は、TOPIX（東証株価指数、配当込み）です。

※指數の著作権、知的所有権、その他一切の権利は発行者、許諾者が有しています。これら発行者、許諾者は当ファンドの運営に何ら関与するものではなく、当ファンドの運用成果に対して一切の責任を負うものではありません。

### ▶ 基準価額の主な変動要因 (2025年4月9日から2025年10月8日まで)

個別銘柄の“予想配当利回りの水準”に着目しつつ、配当の安定性や成長性、企業の業績動向、株価のバリュエーション（投資価値評価）を勘案して銘柄選択を行いました。

上昇要因	<ul style="list-style-type: none"> <li>・魅力ある配当利回りが評価された銘柄に投資を行っていたこと</li> <li>・投資対象として選択した企業の業績が市場予想を上回ったこと</li> </ul>
下落要因	<ul style="list-style-type: none"> <li>・米国による関税が懸念されたこと</li> <li>・米中対立が懸念されたこと</li> </ul>

---

▶ 投資環境について（2025年4月9日から2025年10月8日まで）

---

日本株式市場は上昇しました。

期初は、トランプ大統領による相互関税実施の先延ばしや米中貿易摩擦の後退から上昇しました。国内企業業績見通しは低調であったものの、米政権の関税措置緩和期待などから、その前の下落分を打ち消しました。

期半ばは、中東紛争の短期収束、米関税政策への不安後退、米国の早期利下げ期待などから徐々に下値を切り上げ、日米関税交渉が市場予想よりも早期かつ低税率で合意されると史上最高値を更新しました。

期後半は、国内の四半期GDP（国内総生産）速報値、米利下げの再開などが好感されて上昇基調が継続しました。期末にかけては、石破首相の辞意表明に伴う自民党総裁選において積極財政を掲げる高市氏が選任されたことを受けて、一段と上昇しました。

---

▶ ポートフォリオについて（2025年4月9日から2025年10月8日まで）

---

ポートフォリオの構築に当たっては、引き続き予想配当利回りの高さや株価の割安性に着目しつつも、流動性、財務安定性、業績動向、利益成長性および株主還元政策、将来の配当の安定性や成長性等も勘案して、投資する銘柄を選別しました。

**株式組入比率**

実質株式組入比率は9割以上に保ちました。

**業種配分**

期末の業種配分比率につきましては、市場対比では建設業、不動産業、陸運業などのウェイトを高くしています。一方、電気機器、銀行業、機械などのウェイトを低くしています。

**個別銘柄**

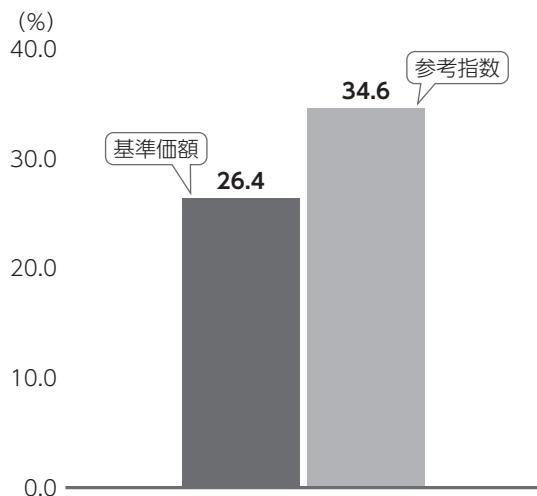
インフロニア・ホールディングス、野村不動産ホールディングスなどを高い比率で保有しています。

**ポートフォリオの特性**

高配当利回り、純資産・予想収益面から割安な特性です。

## ▶ベンチマークとの差異について（2025年4月9日から2025年10月8日まで）

## 基準価額と参考指數の騰落率対比



当ファンドは運用の指標となるベンチマークはありませんが、参考指數としてT O P I X（東証株価指數、配当込み）を設けています。

記載のグラフは、基準価額と参考指數の騰落率の対比です。

## ② 今後の運用方針

運用方針としては、引き続き、銘柄の“予想配当利回りの高さ”や株価の割安性に着目しつつも、業績動向、利益成長性および株主還元政策、将来の配当の安定性や成長性等も勘案して銘柄選択を行っていきます。

また同一セクター内でも業績格差が拡大する傾向が続くとみていることから、業績見通しを精査し、堅調な業績が見込める企業への選別投資を進めていく方針です。

## ■ 1万口当たりの費用明細 (2025年4月9日から2025年10月8日まで)

項目	金額	比率	項目の概要
(a) 売買委託手数料 (株式) (先物・オプション)	29円 (29) ( 0)	0.068% (0.067) (0.000)	売買委託手数料=期中の売買委託手数料／期中の平均受益権口数 売買委託手数料：有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
合計	29	0.068	

期中の平均基準価額は42,424円です。

※期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は、追加・解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出しています。

※比率欄は1万口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

※各項目毎に円未満は四捨五入しています。

## ■ 当期中の売買及び取引の状況 (2025年4月9日から2025年10月8日まで)

### (1) 株式

		買付		売付	
		株数	金額	株数	金額
国内	上場	千株 9,770.2 ( 186.4)	千円 9,511,117 ( -)	千株 4,607.7	千円 9,348,237

※金額は受渡し代金。

※( )内は株式分割、予約権行使、合併等による増減分で、上段の数字には含まれておりません。

### (2) 先物取引の種類別取引状況

種類別	新規買付額	買建		売建	
		決済額	新規売付額	決済額	
国内 株式先物取引	百万円 938	百万円 1,039	百万円 -	百万円 -	百万円 -

※金額は受渡し代金。

## ■ 株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合

(2025年4月9日から2025年10月8日まで)

項目	当期
(a) 期中の株式売買金額	18,859,354千円
(b) 期中の平均組入株式時価総額	18,365,927千円
(c) 売買高比率(a)／(b)	1.02

※(b)は各月末現在の組入株式時価総額の平均。

※外貨建資産については、(a)は各月末（ただし、決算日の属する月については決算日）の日本の対顧客電信売買相場の仲値で換算した邦貨金額の合計、(b)は各月末の同仲値で換算した邦貨金額合計の平均です。

## ■ 利害関係人との取引状況等 (2025年4月9日から2025年10月8日まで)

## (1) 利害関係人との取引状況

区分	買付額等 A	うち利害関係人 との取引状況B	$\frac{B}{A}$	売付額等 C	うち利害関係人 との取引状況D	$\frac{D}{C}$
株式	百万円 9,511	百万円 414	% 4.4	百万円 9,348	百万円 175	% 1.9

## (2) 売買委託手数料総額に対する利害関係人への支払比率

項目	当期
(a) 売買委託手数料総額	12,932千円
(b) うち利害関係人への支払額	510千円
(c) (b)／(a)	3.9%

利害関係人とは、投資信託および投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人であり、当期における当ファンドに係る利害関係人とは、SMB C 日興証券株式会社です。

■ 第一種金融商品取引業、第二種金融商品取引業又は商品取引受託業務を兼業している委託会社の自己取引状況  
(2025年4月9日から2025年10月8日まで)

該当事項はございません。また委託会社に売買委託手数料は支払われておりません。

## ■組入れ資産の明細 (2025年10月8日現在)

## (1) 国内株式

銘柄	期首(前期末)	期末		
		株数	株数	評価額
水産・農林業 (2.4%)	千株	千株	千円	
マルハニチロ	138.8	138.8	480,248	
建設業 (21.9%)				
安藤・間	257.4	257.4	429,858	
長谷工コーポレーション	243.7	243.7	609,250	
鉄建建設	—	59.6	210,984	
西松建設	93.4	93.4	493,058	
ライト工業	56.4	27.9	90,954	
ユアテック	50	—	—	
中電工	—	58.2	227,853	
日本電設工業	—	87.8	243,118	
三機工業	—	81.6	409,632	
中外炉工業	—	48.2	213,044	
太平電業	45.6	136.8	288,648	
明星工業	101	101	166,246	
インフロニア・ホールディングス	480.8	554.8	963,132	
食料品 (6.2%)				
キリンホールディングス	—	160	348,960	
日本たばこ産業	—	178.1	873,580	
化学 (2.5%)				
東ソー	216.8	—	—	
セントラル硝子	24.1	24.1	79,289	
第一稀元素化学工業	75	75	52,500	
三菱ケミカルグループ	902.9	—	—	
三洋化成工業	25.8	90	365,850	
医薬品 (-)				
武田薬品工業	174.7	—	—	
アステラス製薬	486.5	—	—	
日本新薬	88.7	—	—	
ゴム製品 (2.7%)				
TOYO TIRE	—	130	543,400	
ブリヂストン	60.3	—	—	
鉄鋼 (1.4%)				
日本製鉄	111	—	—	
大同特殊鋼	170	—	—	
日本冶金工業	65	65	281,775	
金属製品 (3.2%)				
東洋製罐グループホールディングス	203.1	193.1	643,795	

銘柄	期首(前期末)	期末		
		株数	株数	評価額
機械 (2.3%)				
アマダ	355.3	—	—	
アマノ	66.5	66.5	273,514	
THK	—	30.6	131,488	
スター精密	30	30	50,340	
電気機器 (1.3%)				
芝浦電子	35.2	35.2	250,624	
東京エレクトロン	40	—	—	
輸送用機器 (3.0%)				
NOK	71.8	71.8	191,059	
本田技研工業	433.6	259.6	414,321	
その他製品 (1.0%)				
ローランド	55.7	55.7	191,608	
電気・ガス業 (3.9%)				
関西電力	222.5	—	—	
電源開発	247.4	272.6	765,869	
陸運業 (10.8%)				
小田急電鉄	—	337.8	556,356	
丸全昭和運輸	18.3	18.3	124,989	
センコーグループホールディングス	171.9	171.9	346,722	
セイノーホールディングス	309.6	309.6	674,154	
S Gホールディングス	—	296.2	438,227	
倉庫・運輸関連業 (2.3%)				
住友倉庫	141.4	141.4	459,550	
情報・通信業 (4.5%)				
NTT	—	5,419.3	833,488	
アイネス	36.3	30.8	62,246	
卸売業 (4.2%)				
TOKAIホールディングス	359.3	359.3	359,659	
伊藤忠エネクス	20.3	20.3	40,051	
東陽テクニカ	90.6	90.6	152,026	
加賀電子	65.4	65.4	229,554	
オートバックスセブン	32	32	49,440	
小売業 (1.9%)				
青山商事	15	15	34,725	
丸井グループ	113.8	113.8	345,496	
銀行業 (3.6%)				
三井UFJフィナンシャル・グループ	—	209.1	490,444	
ふくおかフィナンシャルグループ	51.6	51.6	227,349	

# 日本好配当株マザーファンド

銘柄	期首(前期末)		期末	
	株数	株数	評価額	評価額
その他金融業 (0.9%)				
オリックス	41.8	—	—	—
三菱H C キャピタル	150	150	182,025	
不動産業 (15.1%)				
大東建託	23.8	119	370,328	
ヒューリック	—	474.5	753,506	
野村不動産ホールディングス	493.5	941.4	879,926	
飯田グループホールディングス	142.6	142.6	333,897	
東京建物	199.7	217.7	652,338	
スターツコーポレーション	32.7	—	—	
サービス業 (4.9%)				
パソナグループ	—	117	247,104	
キャリアリンク	122.5	122.5	297,307	
ペルシステム24ホールディングス	78	78	105,144	
アイモバイル	194.1	194.1	120,924	
船井総研ホールディングス	62.9	79.3	200,787	
	千株	千株	千円	
合計	株数：金額	8,596.1	13,945	19,851,773
	銘柄数<比率>	56銘柄	57銘柄	<96.6%>

※銘柄欄の（ ）内は、国内株式の評価総額に対する各業種の比率。

※< >内は、純資産総額に対する評価額の比率。

## (2) 先物取引の銘柄別期末残高

銘柄別	期末	
	買建額	売建額
国 内	T O P I X	百万円
		420
		—

## ■ 投資信託財産の構成

(2025年10月8日現在)

項目	期末	
	評価額	比率
株式	千円	%
コール・ローン等、その他	19,851,773	95.6
投資信託財産総額	905,149	4.4
	20,756,923	100.0

## ■ 資産、負債、元本及び基準価額の状況

(2025年10月8日現在)

項目	期末
(A) 資産	20,733,163,238円
コール・ローン等	579,105,858
株式(評価額)	19,851,773,620
未収入金	40,365,774
未収配当金	256,493,065
差入委託証拠金	5,424,921
(B) 負債	178,793,147
未払解約金	178,793,147
(C) 純資産総額(A-B)	20,554,370,091
元本	4,409,009,275
次期繰越損益金	16,145,360,816
(D) 受益権総口数	4,409,009,275口
1万口当たり基準価額(C/D)	46,619円

※当期における期首元本額4,460,567,591円、期中追加設定元本額155,076,848円、期中一部解約元本額206,635,164円です。

※上記表中の次期繰越損益金がマイナス表示の場合は、当該金額が投資信託財産の計算に関する規則第55条の6第10号に規定する額(元本の欠損)となります。

※期末における元本の内訳は以下の通りです。

日本好配当株オーブン	4,241,295,443円
グローバル資産分散オーブン	167,713,832円

※上記表中の受益権総口数および1万口当たり基準価額が、投資信託財産の計算に関する規則第55条の6第7号および第11号に規定する受益権の総数および計算口数当たりの純資産の額となります。

## ■ 損益の状況

(自2025年4月9日 至2025年10月8日)

項目	当期
(A) 配当等収益	329,743,849円
受取配当金	328,297,053
受取利息	1,442,255
その他収益金	4,541
(B) 有価証券売買損益	3,910,728,156
売買益	4,098,177,227
売買損	△ 187,449,071
(C) 先物取引等損益	132,540,300
取引益	132,540,300
(D) 当期損益金(A+B+C)	4,373,012,305
(E) 前期繰越損益金	11,989,900,119
(F) 解約差損益金	△ 691,397,580
(G) 追加信託差損益金	473,845,972
(H) 合計(D+E+F+G)	16,145,360,816
次期繰越損益金(H)	16,145,360,816

※有価証券売買損益および先物取引等損益は期末の評価換算によるものを含みます。

※追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

※解約差損益金とあるのは、中途解約の際、元本から解約価額を差し引いた差額分をいいます。

## ■ お知らせ

＜約款変更について＞

該当事項はございません。